

現代政策学部

社会経済システム学科

現代政策学部

履修の手引と手続

I 授業科目について

現代政策学部における授業科目は、基本科目（演習科目、政策系科目、キャリア系科目、情報系科目、必修語学科目）、専門科目（専門コア科目含む）、関連科目からなる。その他、教員志望者のための教職に関する科目の自由科目がある。

II 授業科目の単位と認定

本学では単位制が採用されている。単位制とは、一つ一つの授業科目に一定の基準により定められた単位であり、履修した授業科目に対して、試験その他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。単位認定の評価は、S・A・B・Cにより単位を修得したことを示す。

III 進級条件について

各年次で進級に必要な最低単位数は、次の表に示すとおりである。

【進級要件】

学年	要件	最低修得単位数
1年から 2年	次の科目を含んで18単位 フレッシュマンセミナーA・B又はFreshman Seminar A・B	2単位
2年から 3年	次の科目を含んで56単位 フレッシュマンセミナーA・B又はFreshman Seminar A・B ソフォモアセミナーA・B又はSophomore Seminar A・B 政策研究基礎A・B（2科目4単位中） 政策研究の基礎数学A・B（2科目4単位中） コンピュータ・リテラシーA・B（2科目4単位中） コミュニケーション基礎英語A・B・C・D（4科目8単位中） 〔外国人留学生〕 日本語IA・IB・IC・ID（4科目8単位中）	4単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位 2単位

3 年から 4 年	次の科目を含んで 90 単位 フレッシュマンセミナー A・B 又は Freshman Seminar A・B ソフォモアセミナー A・B 又は Sophomore Seminar A・B 政策ゼミナール I A・B 又は Research Seminar I A・B 政策研究基礎 A・B (2 科目 4 単位中) 政策研究の基礎数学 A・B (2 科目 4 単位中) コンピュータ・リテラシー A・B (2 科目 4 単位中) 政策学概論 A・B (2 科目 4 単位中) キャリアリサーチ コミュニケーション基礎英語 A・B・C・D (4 科目 8 単位中) [外国人留学生] 日本語 I A・I B・I C・I D (4 科目 8 単位中)	4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 4 単位 2 単位 2 単位 4 単位 4 単位
--------------	--	--

Ⅳ 卒業について

(1) 卒業に必要な単位数は、次の表に示すとおりである。

ただし、自由科目（教職関連科目）の単位は、卒業に必要な単位には含まれない

区分	分野	科目名	単位数		
基 本 科 目	演習科目	フレッシュマンセミナー A・B又は Freshman Seminar A・B	4 単位	44 単位	
		ソフォモアセミナー A・B又は Sophomore Seminar A・B	4 単位		
		政策ゼミナール I A・B又は Research Seminar I A・B	4 単位		
		政策ゼミナール II A・B 又は Research Seminar II A・B	4 単位		
	政策系科目	政策研究基礎 A・B	4 単位		
		政策研究の基礎数学 A・B	4 単位		
		政策学概論 A・B	4 単位		
	キャリア系科目	キャリアリサーチ	2 単位		
		キャリアアクション	2 単位		
	情報系科目	コンピュータ・リテラシー A・B	4 単位		
* 必修語学科目	コミュニケーション基礎英語 A・B・C・D	8 単位			
専門科目		コア科目 選択必修	20 単位 以上	50 単位 以上	
		選択			
関連科目			36 単位以上		
合計			130 単位		

* 外国人留学生は、必修語学科目として日本語 I A・I B・I C・I D の 4 科目 8 単位を修得すること。

(2) 2 年次以上に編入または転部した者については、次のとおりとする。

編入または転部した者で、本学部の必修科目を振替できなかった場合は、編入又は転部した年度にその科目を履修することとする。

但し、2 年次に編入又は転部した者はフレッシュマンセミナー A・B の代替として関連科目から 2 科目 4 単位を修得しなければならない。3 年次に編入又は転部した者はフレッシュマンセミナー A・B 及びソフォモアセミナー A・B の代替として関連科目から 4 科目 8 単位を修得しなければならない。

特別共同教育プログラム等により秋季に編入学した者は、上記の対応に加え、プレゼミナール (SEP) を政策ゼミナール II B (又は Research Seminar II B) に振り替える。

V 履修単位の上限について

各年次には、次のように履修単位の上限が決まっているので、留意して履修申請を行い進級、卒業に必要な単位数を満たすこと。

単位数 \ 年次	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
履修単位の上限	48 単位	48 単位	48 単位	48 単位

- (1) 「インターンシップ I ～IV」・「国際インターンシップ I ～IV」および「ボランティア I ～IV」は、履修上限単位数に含まない。
- (2) 自由科目（教職関連科目）は、履修上限単位数に含まない。
- (3) 編入生については、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。
- (4) 留学 (JEAP, 夏期語学研修, 春期語学研究, 交換留学) の履修上限単位数については、別途定める。

VI 授業科目の学年配当と修得すべき単位数

1. 基本科目

(1) 演習科目

演習科目はすべて必修科目である。なお、次のとおり履修の条件がある。

- イ. ソフォモアセミナー A・B 又は Sophomore Seminar A・B を履修するためには、フレッシュマンセミナー A・B 又は、Freshman Seminar A・B の 2 単位を修得し、かつ 2 年生に進級していなければならない。
- ロ. 政策ゼミナール I A・B 又は Research Seminar I A・B を履修するためには、ソフォモアセミナー A・B 又は Sophomore Seminar A・B のいずれか 2 単位を修得し、かつ 3 年生に進級していなければならない。
- ハ. 政策ゼミナール II A・B 又は Research Seminar II A・B を履修するためには、政策ゼミナール I A・B 又は Research Seminar I A・B の単位を修得し、かつ 4 年生に進級していなければならない。また、政策ゼミナール I A・B 又は Research Seminar I A・B と同じ担当教員を継続して履修しなければならない。

演 習 科 目

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
社会経済システム学科	演習科目	1	フレッシュマンセミナーA又は Freshman Seminar A	2
			フレッシュマンセミナーB又は Freshman Seminar B	2
		2	ソフォモアセミナーA又は Sophomore Seminar A	2
			ソフォモアセミナーB又は Sophomore Seminar B	2
		3	政策ゼミナール I A 又は Research Seminar I A	2
			政策ゼミナール I B 又は Research Seminar I B	2
			※プレゼミナール (SEP)	2
		4	政策ゼミナール II A 又は Research Seminar II A	2
			政策ゼミナール II B 又は Research Seminar II B	2

※印の付している科目は、特別共同教育プログラム (SEP) 秋季編入生履修科目

(2) 政策系科目

すべて必修科目である。

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
社会経済システム学科	政策系科目	1	政策研究基礎 A	2
			政策研究基礎 B	2
			政策研究の基礎数学 A	2
			政策研究の基礎数学 B	2
		2	政策学概論 A	2
			政策学概論 B	2

(3) キャリア系科目

すべて必修科目である。

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
社会経済システム学科	キャリア系科目	2	キャリアリサーチ	2
		3	キャリアアクション	2

(4) 情報系科目

すべて必修科目である。

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
社会経済システム学科	情報系科目	1	コンピュータ・リテラシー A	2
			コンピュータ・リテラシー B	2

(5) 必修語学科目

すべて必修科目である。

学科	系列	学年配当	授 業 科 目	単位数
社会経済システム学科	必修語学科目	1	コミュニケーション基礎英語 A	2
			コミュニケーション基礎英語 B	2
			コミュニケーション基礎英語 C	2
			コミュニケーション基礎英語 D	2
			※日本語 I A	2
			※日本語 I B	2
			※日本語 I C	2
			※日本語 I D	2

※印の付している科目は、外国人留学生履修科目

なお、日本語能力試験 N1 合格者は、申請により※印の付している科目の単位を認定し、履修を免除する。

2. 専攻毎のコア科目

専門コア科目は、20 単位以上を修得しなければならない。

自分の所属する専攻以外の専門コア科目を履修しても専門科目として単位を修得することができる。

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社会経済システム学科	専門科目 (公共政策専攻コア科目)	2	行政学 A	2	20 単位以上選択必修	専門コア科目から 20 単位以上を含み、専門科目を 50 単位以上修得
			行政学 B	2		
			憲法（基本的人権）	2		
			憲法（統治機構）	2		
			公共政策学 A	2		
			公共政策学 B	2		
			社会安全政策論	2		
			社会調査法（質的調査）	2		
			社会調査法（量的調査）	2		
			マクロ経済理論 A	2		
			マクロ経済理論 B	2		
			ミクロ経済理論 A	2		
			ミクロ経済理論 B	2		
		3	N P O 論	2		
			行政法 A	2		
			行政法 B	2		
			公共経済学 A	2		
			公共経済学 B	2		
			コミュニティ・ビジネス論	2		
	専門科目 (医療福祉政策専攻コア科目)	2	介護概論 A	2	20 単位以上選択必修	専門コア科目から 20 単位以上を含み、専門科目を 50 単位以上修得
			介護概論 B	2		
			健康と医療の経済学 A	2		
			健康と医療の経済学 B	2		

学 科	系 列	学年 配当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社会経済システム学科	専門科目 (医療福祉政策専攻コア科目)	2	財政学 A	2		
			財政学 B	2		
			社会福祉概論 A	2		
			社会福祉概論 B	2		
			社会保障論 A	2		
			社会保障論 B	2		
			障害者福祉論 A	2		
			障害者福祉論 B	2		
		3	医事法制 A	2		
			医事法制 B	2		
			社会福祉施設経営 A	2		
			社会福祉施設経営 B	2		
			社会福祉の国際比較 A	2		
			社会福祉の国際比較 B	2		
			社会保障財政 A	2		
			社会保障財政 B	2		
	専門科目 (ビジネス法務専攻コア科目)	2	会社法 A	2	20 単位以上選択必修	専門コア科目から 20 単位以上を含み、専門科目を 50 単位以上修得
			会社法 B	2		
			金融システム論	2		
			金融政策論	2		
			ビジネスキャリア A	2		
			ビジネスキャリア B	2		
			プログラミング A	2		
			プログラミング B	2		
			民法 (総則)	2		
			民法 (物権)	2		

学 科	系 列	学年 配当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社会経済システム学科	専門科目 (ビジネス法務専攻コア科目)	3	コミュニティ・ビジネス論	2		
			社会保障法	2		
			地域金融論	2		
			手形・小切手法A	2		
			手形・小切手法B	2		
			ビジネス法務A	2		
			ビジネス法務B	2		
			民法（債権各論）	2		
			民法（債権総論）	2		
			労働法	2		
	専門科目 (地域イノベーション専攻コア科目)	2	観光政策	2	20 単位以上選択必修	専門コア科目から 20 単位以上を含み、専門科目を 50 単位以上修得
			社会調査法（質的調査）	2		
			社会調査法（量的調査）	2		
			食と農の経済学A	2		
			食と農の経済学B	2		
			地域政策	2		
			地域防災政策A	2		
			地域防災政策B	2		
			都市社会学A	2		
			都市社会学B	2		
		3	NPO論	2		
			交通経済学	2		
			交通政策	2		
			コミュニティ・ビジネス論	2		
			地域イノベーション	2		
			地域活性化論	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社会経済システム学科	(専門科目) 地域イノベーション政策科目	3	地域情報化論	2		
			デジタルガバメント論	2		
			デジタルビジネス論A	2		
			デジタルビジネス論B	2		
	専門科目 (国際文化政策専攻コア科目)	2	International Relations	2	20 単位以上選択必修	専門コア科目から 20 単位以上を含み、専門科目を 50 単位以上修得
			Area Studies A (Asia-Pacific)	2		
			Area Studies B(Europe)	2		
			Area Studies C(America)	2		
			Global Politics	2		
			国際関係特講	2		
			国際政治外交史 A	2		
			国際政治外交史 B	2		
			多文化社会論	2		
			文化史 A	2		
			文化史 B	2		
			文化政策 A	2		
			文化政策 B	2		
		3	アート・マネジメント	2		
			芸術・文化遺産政策	2		
			公立文化施設論	2		
			国際法 A	2		
			国際法 B	2		
			社会福祉の国際比較 A	2		
			社会福祉の国際比較 B	2		

3. 専門科目

各専攻コア科目以外にも、下記の専門科目があります。

専門科目は、自分の所属する専攻の専門コア科目から 20 単位以上を含み、合計で 50 単位以上修得しなければならない。自分の所属する専攻以外の専門コア科目も、専門科目として履修することができる。

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	専 門 科 目	2	会計学 A	2	専門コア科目から 20 単位以上を含み、専門科目を 50 単位以上修得。	
			会計学 B	2		
			環境政策 A	2		
			環境政策 B	2		
			経営学 A	2		
			経営学 B	2		
			刑法総論 A	2		
			刑法総論 B	2		
			現代日本の経済政策 A	2		
			現代日本の経済政策 B	2		
			現代の法と政治 A	2		
			現代の法と政治 B	2		
			建築基準法	2		
			憲法特殊演習（基本的人権）	2		
			憲法特殊演習（統治機構）	2		
			産業心理学 A	2		
			産業心理学 B	2		
			産業政策論 A	2		
			産業政策論 B	2		
			ジェンダー文化論	2		
			情報セキュリティ論	2		
			情報通信政策論	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	専 門 科 目	2	スポーツ経営論	2		
			スポーツ産業論	2		
			政治学 A	2		
			政治学 B	2		
			宅建特殊演習 A	2		
			宅建特殊演習 B	2		
			都市計画法	2		
			日本経済論 A	2		
			日本経済論 B	2		
			不動産学 A	2		
			不動産学 B	2		
			不動産法規特殊演習 A	2		
			不動産法規特殊演習 B	2		
			労働社会学 A	2		
			労働社会学 B	2		
		3	医療福祉経営 A	2		
			医療福祉経営 B	2		
			応用 AI プログラミング	2		
			科学技術思想 A	2		
			科学技術思想 B	2		
			家族関係の法政策	2		
			金融データ分析	2		
			刑法各論	2		
			計量経済分析 A	2		
			計量経済分析 B	2		
			ゲーム理論と AI	2		
			ゲーム論 A	2		
			ゲーム論 B	2		
			高齢社会の法政策	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	専 門 科 目	3	社会科学におけるデータサイエンス	2		
			社会心理学 A	2		
			社会心理学 B	2		
			社会保険実務 A	2		
			社会保険実務 B	2		
			政策過程論	2		
			政策デザイン論	2		
			政策分析論	2		
			政策評価論	2		
			知的財産法 A	2		
			知的財産法 B	2		
			地方財政 A	2		
			地方財政 B	2		
			地方自治論	2		
			中小企業金融論	2		
			定量的政策評価	2		
			都市経済論 A	2		
			都市経済論 B	2		
			ビジネス英会話 A	2		
			ビジネス英会話 B	2		
			復興政策論	2		
			防災政策論	2		
			民法特殊演習 A	2		
			民法特殊演習 B	2		
			リスクマネジメント A	2		
			リスクマネジメント B	2		
			労働市場の法政策	2		

4. 関連科目

関連科目から 36 単位以上修得しなければならない。

本語による授業，英語表記科目名は英語による授業となる。

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	関 連 科 目	1	遺伝子 A	2	(選択) 36 単位以上 選択必修	
			遺伝子 B	2		
			医療福祉特講	2		
			English Communication I A	2		
			English Communication I B	2		
			インターンシップ I	2		
			運動生理学概論	2		
			英語集中トレーニング A	4		
			英語集中トレーニング B	4		
			Oral English I A	2		
			Oral English I B	2		
			海外研修 I	2		
			海外研修 II	2		
			海外研修 III	2		
			海外研修 IV	2		
			会計基礎 A	2		
			会計基礎 B	2		
			家族と法 (民法入門)	2		
			課題解決演習 I A	2		
			課題解決演習 I B	2		
			からだのメカニズム A	2		
			からだのメカニズム B	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	関 連 科 目	1	韓国語ⅠA	2		留学生履修科目
			韓国語ⅠB	2		
			企業と法（商法入門）	2		
			基礎経済学A	2		
			基礎経済学B	2		
			基礎社会学A	2		
			基礎社会学B	2		
			基礎心理学A	2		
			基礎心理学B	2		
			機能的解剖学概論	2		
			教養英語A	2		
			教養英語B	2		
			グローバル社会と女性	2		
			経済史入門	2		
			ゲーム論入門	2		
			健康管理概論	2		
			健康スポーツⅠA	1		
			健康スポーツⅠB	1		
			健康スポーツⅡA	1		
			健康スポーツⅡB	1		
			現代社会と法（国際法を含む）	2		
			現代社会と法（日本国憲法）	2		
			現代日本の社会経済システム	2		
			現代の地域紛争A	2		
			現代の地域紛争B	2		
			国際インターンシップⅠ	2		
			国際グローバル研修	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	関 連 科 目	1	資格英語Ⅰ A	2		
			資格英語Ⅰ B	2		
			資格英語Ⅱ A	2		
			資格英語Ⅱ B	2		
			資格英語Ⅲ A	2		
			資格英語Ⅲ B	2		
			自校史研究	2		
			情報学概論 A	2		
			情報学概論 B	2		
			職業生活と法（労働法入門）	2		
			女性学 A	2		
			女性学 B	2		
			女性とキャリアデザイン	2		
			女性とダイバーシティ	2		
			スペイン語 A	2		
			スペイン語 B	2		
			スポーツ心理学	2		
			スポーツコーチング実践 A	1		
			世界の中の日本 A	2		
			世界の中の日本 B	2		
			地域と大学	2		
			チェコ語 A	2		
			チェコ語 B	2		
			中国語Ⅰ A	2		
			中国語Ⅰ B	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	関 連 科 目	1	中国語集中トレーニング I A	4		
			中国語集中トレーニング I B	4		
			哲学入門 A	2		
			哲学入門 B	2		
			データサイエンス入門	2		
			ドイツ語 I A	2		
			ドイツ語 I B	2		
			統計学入門 A	2		
			統計学入門 B	2		
			日常生活と法（民法入門）	2		
			日本文化論 A	2		
			日本文化論 B	2		
			Public Communication I A	2		
			Public Communication I B	2		
			ハンガリー語 A	2		
			ハンガリー語 B	2		
			犯罪と法（刑法入門）	2		
			比較経済史	2		
			フランス語 I A	2		
			フランス語 I B	2		
			文化研究 I	1		
			文化研究 II	1		
			法律学の学び方 A	2		
			法律学の学び方 B	2		
			ポーランド語 A	2		
			ポーランド語 B	2		
			ボランティア I	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	関 連 科 目	1	マレー語 A	2		
			マレー語 B	2		
			留学英語 A	2		
			留学英語 B	2		
			論理的思考法 I A	2		
			論理的思考法 I B	2		
		2	Oral English II A	2		
			Oral English II B	2		
			English Communication II A	2		
			English Communication II B	2		
			インターンシップ II	2		
			W e b デザイン入門	2		
			W e b プログラミング入門	2		
			運動処方論	2		
			課題解決演習 II A	2		
			課題解決演習 II B	2		
			韓国語 II A	2		
			韓国語 II B	2		
			健康スポーツ III A	1		
			健康スポーツ III B	1		
			現代日本の税制	2		
			国際インターンシップ II	2		
			国際政策研修	4		
			個人情報保護法	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	関 連 科 目	2	社会思想 A	2		留 学 生 履修科目
			社会思想 B	2		
			情報公開法	2		
			数理的思考法 I A	2		
			数理的思考法 I B	2		
			スポーツ医学	2		
			スポーツ栄養学	2		
			スポーツコーチング I A	2		
			スポーツコーチング I B	2		
			体力トレーニング論	2		
			スポーツコーチング実践 B	1		
			中国語 II A	2		
			中国語 II B	2		
			中国語集中トレーニング II A	4		
			中国語集中トレーニング II B	4		
			地理学 A（地誌を含む）	2		
			地理学 B	2		
			ドイツ語 II A	2		
			ドイツ語 II B	2		
			日本語 II A	2		
			日本語 II B	2		
			発育発達論	2		
			ビジネスと資格 A	2		
			ビジネスと資格 B	2		
			フランス語 II A	2		
			フランス語 II B	2		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	関 連 科 目	2	ボランティアⅡ	2		特別共同教 育プログラム（SEP） 編入生履修 科目
			Modern European Society	2		
			論理的思考法Ⅱ A	2		
			論理的思考法Ⅱ B	2		
		3	インターンシップⅢ	2		
			外国史概説	2		
			課題解決演習Ⅲ A	2		
			課題解決演習Ⅲ B	2		
			機械学習と AI	2		
			救急処置	0.5		
			現代日本の経済事情（SEP）	2		
			現代日本の法と政治（SEP）	2		
			国際インターンシップⅢ	2		
			国際経済論 A	2		
			国際経済論 B	2		
			数理的思考法Ⅱ A	2		
			数理的思考法Ⅱ B	2		
			スポーツコーチング実践 C	1		
			スポーツ・マネジメント論 A	2		
			スポーツ・マネジメント論 B	2		
			データサイエンス特別講義Ⅰ	2		
			データサイエンス特別講義Ⅱ	2		
			データサイエンスと数理統計	2		
			トレーニング指導法実習	1		
			体力測定評価実習	1		

学 科	系 列	学 年 配 当	授業科目	単 位 数	最低習得単位数	備考
社 会 経 済 シ ス テ ム	関 連 科 目	3	西洋哲学概説	2		特別共同教育プログラム (SEP) 編 入生及び留学生履修科目
			東洋哲学概説	2		
			日本史概説 A	2		
			日本史概説 B	2		
			日本語特殊演習 I A	2		
			日本語特殊演習 I B	2		
			日本語特殊演習 II A	2		
			日本語特殊演習 II B	2		
			日本語特殊演習 III A	2		
			日本語特殊演習 III B	2		
			日本語特殊演習 IV A	2		
			日本語特殊演習 IV B	2		
			日本語特殊演習 V A	2		
			日本語特殊演習 V B	2		
			日本語特殊演習 VI A	2		
			日本語特殊演習 VI B	2		
			ボランティア III	2		
			倫理学概説 A	2		
			倫理学概説 B	2		
		4	インターンシップ IV	2		
			課題解決演習 IV A	2		
			課題解決演習 IV B	2		
			国際インターンシップ IV	2		
			ボランティア IV	2		

5. 教職関連科目（自由科目）

教職関連科目は、希望者により選択履修できる。なお、これらの科目は自由科目であり、卒業に必要な単位に算入されない。

詳細については、教員免許状取得のための課程の頁を参照すること。

学科	系列	授 業 科 目	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次
社会 経 済 シ ス テ ム 学 科	自 由 科 目	教育学概論 A	2			
		教職論	2			
		生徒指導（進路指導の理論及び方法を含む）		2		
		教育心理学		2		
		教育学概論 B		2		
		教育方法及び ICT 指導法		2		
		特別支援教育		2		
		教育史		2		
		道德教育の理論と指導法		2		
		教育課程論（総合的な学習・探究の時間の指導法を含む）		2		
		学校と図書館		2		
		ジェンダー・教育・ダイバーシティ		2		
		スチューデント・インターシップ I		1		
		スチューデント・インターシップ II		1		
		特別活動論			2	
		教育相談（カウンセリングを含む）			2	
		社会科教育法 A			4	
		社会科教育法 B			4	
		公民科教育法 A			2	
		公民科教育法 B			2	
		介護等体験実習（事前及び事後指導を含む）			2	
		教職実践演習（中・高）				2
		教育実習 I（事前及び事後指導を含む）				3
		教育実習 II				2

6. オールイングリッシュ科目

現代政策学部の授業科目のうち、以下に示す授業科目（「オールイングリッシュ授業科目」）については、全て英語による授業です。

なお、これらのオールイングリッシュ授業科目を履修する場合には、次の点に留意しなければなりません。

日本語対応科目との重複履修はできません。

（日本語対応科目のある「オールイングリッシュ授業科目」は、下表に示すとおりです。）

オールイングリッシュ授業科目の日本語対応科目

（１）基本科目・演習科目

系列	学年 配当	オールイングリッシュ 授業科目	単位 数	日本語対応科目	単位 数
基本 科目	1	Freshman Seminar A	2	フレッシュマンセミナーA	2
		Freshman Seminar B	2	フレッシュマンセミナーB	2
	2	Sophomore Seminar A	2	ソフォモアセミナーA	2
		Sophomore Seminar B	2	ソフォモアセミナーB	2
	3	Research Seminar I A	2	政策ゼミナール I A	2
		Research Seminar I B	2	政策ゼミナール I B	2
	4	Research Seminar II A	2	政策ゼミナール II A	2
		Research Seminar II B	2	政策ゼミナール II B	2

* 上記科目を履修の場合は、基本科目の必修科目となります。

Ⅶ 授業科目の履修申請

履修する授業科目は、毎学年所定の期間に履修申請をしなければならない。この履修申請は、年間の受講計画をたて、単位を修得する意思表示をする重要な手続きである。履修申請を間違えたために、授業科目の履修ができなくなり、その結果進級はもとより、卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りのないように履修申請すること。

－履修申請時の注意事項－

- (1) 当該学部・学科の授業時間割表を参照し、受講したい授業科目の曜日、時限、コマ・コード※1、授業科目名、開講期間、担当教員等を確認の上、申請を行なうこと。
- (2) 履修申請の期間及び方法は、各年次初めのオリエンテーションで説明をするので、確認をすること。
- (3) 春・秋学期ともに、履修内容照合・変更期間を設けているので、間違いなく申請した授業科目が登録されているかを確認すること。登録に誤りがある場合は、この期間中に学部事務室に申し出ること。
- (4) 履修内容照合・変更期間以外で、登録した授業科目の履修変更（追加・取消等）は認められない。
- (5) 履修申請（登録）をしていない授業科目は、受講しても単位は認められない。
- (6) 同一曜日の同一時限に開講されている授業科目を複数履修申請することはできない。
- (7) 単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。
- (8) 計画的な学習を促すため、授業以外の学習時間を確保することを目的として、各年次には、1年間又は1学期に登録ができる履修単位の上限が決まっているので、留意して履修申請をすること。
- (9) 指定された期日までに履修申請を行わない場合は、学業の意思なしとみなし、**退学を命ずることがある**。

※1 コマコードとは、授業時間割表に授業科目名等と共に記載されている番号で、その時限の授業科目の固有の番号である。

Ⅷ 正規の履修から外れる場合

1. 再履修

履修申請をしたが単位を修得できなかった授業科目を、再び履修することを再履修という。再履修は、原則として、再履修のクラスを設けている場合は、そのクラスで受講すること。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合の履修を規定外履修という。

規定外履修をする場合は、予め学部事務室に相談すること。ただし、原則として1年次生の規定外履修は認めない。

IX 成績評価について

1. 成績評価の方法

学業成績は、試験（筆記・レポート等）及び授業時の小テストの結果、課題提出状況等をもとに総合的に評価する。授業科目ごとの成績評価方法は、シラバスに記載している。

なお、出席すべき授業時数の3分の1以上を欠席した者は、当該授業科目の修了認定を受けることはできない。ただし、病気又は正当な理由による長期欠席の場合には、特別に考慮されることがある。

2. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は、定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末に実施する。
- (2) 試験時間割は掲示により周知する。

3. 試験に関する通則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従うこと。
監督者の指示に従わない者には退場を命ずることがある。
- (2) 試験場内では、筆記用具・持込を許された資料以外のものはすべてカバンの中に入れ資料等をむき出しのまま机の中に入れてはならない。
- (3) 学生証は机上の見やすい場所に提示して置くこと。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室・受験を認めない。
- (5) 試験開始後25分間は退場することができない。監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料未納の者、授業時数の3分の1以上欠席した者は試験を受けることができない。受験資格のない者の答案は無効とする。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は、診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて早急に学務事務室に届出なければならない。届出の遅れや無届けの場合は評価対象外となる。

4. 追試験

- (1) 定期試験を、病気その他やむを得ない事情により受験できなかった者は、追試験を受けることができる。試験は、筆記・レポート等により実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な理由を証明する書面をもって速やかに学部事務室に届け出ること。
- (3) 追試験は、成績通知書の評価欄に「T」の表示がある科目が対象となる。
- (4) 追試験は、履修（再履修を含む）した年度の学期末に限り受験することができる。
- (5) 追試験は、原則として学期末に実施する。
- (6) 追試験を受験する者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
- (7) 追試験の受験料は、1科目につき200円である。

5. 再試験

- (1) 定期試験の結果、不合格となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合、受験することができる。試験は筆記・レポート等により実施する。授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 再試験は、成績通知書の評価欄に「F」の表示がある科目が対象となる。
- (3) 再試験は、履修（再履修を含む）した年度の学期末に限り受験することができる。
- (4) 再試験は、原則として学期末に実施する。
- (5) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。
- (6) 再試験の受験料は、1 科目につき 1,000 円である。

6. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 試験における不正行為は厳正に処分する。
- (2) 本書「城西大学 学内試験等における不正行為の取り扱い指針」を参照すること。

X 成績発表

- (1) 成績発表は、開示期間に指定 URL にアクセスし、web 成績照会システムを開いて行う。
- (2) 成績評価は、下記 XI GPA についての「GP の基準」を参照のこと。
- (3) 成績についての疑問、質問等は早急に学部事務室に問い合わせること。

XI GPA について

本学では、「GPA (Grade Point Average)」制度を導入している。以下に示すことを十分理解しておくこと。

1. GPA の意味

- (1) GPA の値とは、自分の成績を数値化したものである。学期毎や学年毎までの GPA や入学からの通算の GPA を比較することで、自らの学習成果の推移を知ることができる。
- (2) GPA の値には、T 評価、F 評価および Z 評価を受けた科目についても計算に組み入れられる。したがって、安易に考えて開講期間の半ばで授業参加をやめた場合などは低い値となる。

2. GPA の計算

「GPA」は、下記の基準に基づいて評価した成績の GP (Grade Point) に各科目の単位数を掛けて合計し、履修登録した科目の単位数の合計で割った 1 単位あたりの GP 平均値 (Average) である。仮に、履修した科目の成績がすべて「S」評価の場合は GPA の数値は

4 になり、すべての成績が「C」の場合は 1 となる。

「GP の基準」

成績評価（表示）	評価の基準（点）	合否	GP
S	100 ～ 90	合格	4
A	89 ～ 80	合格	3
B	79 ～ 70	合格	2
C	69 ～ 60	合格	1
F	59 以下	不合格	0
T	追試験受験可	未受験（不合格）	0
Z	失格	不合格	0

$$\text{GPA} = \frac{[\text{GP} \times \text{当該科目の単位数}] \text{の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計（T 評価，F 評価，Z 評価科目を含む）}}$$

（注）不合格となった科目を次年度以降に再履修して合格した場合には、成績は上書きされ、過去の不合格の成績は、GPA 計算式に算入されない。

（注）GPA 計算式に算入されない科目もある。